

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 1 月 13 日 (2005.1.13)

【公表番号】特表 2000-516085 (P2000-516085A)

【公表日】平成 12 年 12 月 5 日 (2000.12.5)

【出願番号】特願平 9-543090

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09

C 0 7 K 14/705

C 1 2 N 1/19

C 1 2 Q 1/68

G 0 1 N 33/15

G 0 1 N 33/50

// (C 1 2 N 1/19

C 1 2 R 1:85)

(C 1 2 N 1/19

C 1 2 R 1:865)

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

C 0 7 K 14/705

C 1 2 N 1/19

C 1 2 Q 1/68 A

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

C 1 2 N 1/19

C 1 2 R 1:85

C 1 2 N 1/19

C 1 2 R 1:865

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 5 月 28 日 (2004.5.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年5月28日



特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第543090号

2. 補正をする者

住 所 アメリカ合衆国 ニュージャージー州07940、マディ
ソン、ジラルダ ファームズ 5

名 称 アメリカン シアナミド コンパニー

3. 代 理 人

住 所 東京都新宿区本塩町19番地 AOIビル

電話 (5366) 9961

氏 名 弁理士 (10-284) 葛和 清司



4. 補正対象書類名 明細書及び請求の範囲

5. 補正対象項目名 明細書及び請求の範囲

6. 補正の内容

I. 請求の範囲 別紙のとおり

II. 明細書

1) 明細書、1頁2行(発明の名称)の「超気門(Ultraspiracle) 阻害剤のためのスクリーン」の記載を「ウルトラスパイラクル(Ultraspiracle) 阻害剤の選抜法」と訂正する。

2) 同、1頁6行の「超気門」の記載を「ウルトラスパイラクル」と訂正する。

3) 同、1頁12行の「超気門(Usp) 遺伝子」の記載を「ultraspiracle gene(Usp 遺伝子)」と訂正する。

4) 同、2頁下から6行の「超気門蛋白質(Usp)」の記載を「Usp」と訂正する。

5) 同、3頁2行の「提供し、」の記載を「提供すること、」と訂正する。



方 式 査 査



6) 同、3頁4行の「培養を形成し、テスト化合物がない時に対照標準を形成し、」の記載を「培養物を形成すること、テスト化合物が存在しない対照培養物を形成すること、」と訂正する。

7) 同、3頁5～8行の

「(iv) 対照標準培養と比較してテスト培養の中のレポーター遺伝子の発現を観察できる程度に減らすUspの何らかの化合物の機能を阻害する化合物として明らかにする。」の記載を

「(iv) 対照培養物と比較して、テスト培養物の中のレポーター遺伝子の発現を検出できる程度に減らす化合物をUspの機能を阻害する化合物として認識すること。」と訂正する。

8) 同、3頁14行の「(アルギニン類似物)」の記載を「(アルギニン類縁体)」と訂正する。

9) 同、3頁下から4行の「超気門」の記載を「ウルトラスパイラクル」と訂正する。

10) 同、4頁9行の「超気門蛋白質(Usp)」の記載を「Usp」と訂正する。

11) 同、18頁下から8行及び同、19頁2行(計2ヶ所)の「S. セレピシエ」の記載を「エス. セレピシエ」と訂正する。

12) 同、31頁下から2行の「ウルトラスピラクル」の記載を「ウルトラスパイラクル」と訂正する。

以上

別 紙

請求の範囲

1. キイロシヨウジョウバエのU s p の機能を阻害する化合物を見出すための方法であって、該方法が次の工程、即ち、

(i) 下記 (a), (b) および (c) を含む形質転換酵母細胞を供給すること、

(a) U s p 結合パートナー、

(b) 該結合パートナーと機能的複合体を形成し得るU s p またはその誘導体、および

(c) リポーター遺伝子であって、そのリポーター遺伝子の発現には該U s p -U s p 結合パートナー複合体を必要とするもの、

(ii) 該形質転換酵母細胞をテスト化合物の存在下に培養してテスト培養物を生成すること、およびテスト化合物の不存在下に培養して対照培養物を生成すること、そして

(iii) 該テスト培養物および対照培養物中の該リポーター遺伝子の発現をモニターすること

を含む、前記方法。

2. 更に、

(iv) U s p の機能を阻害する化合物として、該テスト培養物中で該リポーター遺伝子の発現を該対照培養物に比較して減少させる化合物を検出すること

を含む、請求項 1 に記載の方法。

3. キイロシヨウジョウバエのU s p の機能を阻害する化合物を見出すための方法であって、該方法が次の工程、即ち、

(i) 下記 (a), (b) および (c) を含む形質転換酵母細胞を供給すること、

(a) U s p 結合パートナー、

(b) 該結合パートナーと機能的複合体を形成し得るU s p またはそ

の誘導体、および

(c) リポーター遺伝子であって、そのリポーター遺伝子の発現には該U s p-U s p結合パートナー複合体を必要とするもの、

(ii) 該形質転換酵母細胞をテスト化合物の存在下に培養してテスト培養物を生成すること、およびテスト化合物の不存在下に培養して対照培養物を生成すること、そして

(iii) 該テスト培養物および対照培養物中の該リポーター遺伝子の発現をモニターし、該テスト培養物中で該リポーター遺伝子の発現を該対照培養物に比較して減少させる化合物を検出することを含む、前記方法。

4. U s p結合パートナーが、U s pを有する機能的複合体に存在するときのみリポーター遺伝子の発現を刺激する、請求項1に記載の方法。

5. 酵母が、エス. セレビシエ (*S. cerevisiae*) およびエス. ポンベ (*S. pombe*) からなる群より選択される、請求項1に記載の方法。

6. U s p結合パートナーが、mAR\E c R-C D E Fを含む、請求項1に記載の方法。

7. リポーター遺伝子が、エクジソン-応答性転写活性化配列に操作可能状態で結合したエス. セレビシエから誘導されるCAN1をコードするDNAを含む、請求項6に記載の方法。

8. U s p結合パートナーが、ビタミンD受容体、レチノイン酸受容体、エクジソン受容体、甲状腺ホルモン受容体、ペルオキシソーム増殖体活性化受容体、およびDHR38からなる群より選択される、請求項1に記載の方法。

。

9. リポーター遺伝子が、エクジソン応答因子、アンドロゲン応答因子、ビタミンD応答因子、レチノイン酸応答因子、ペルオキシソーム増殖体応答因子、およびその機能的誘導体からなる群より選択されたDNA配列に操作可能状態で結合したエス. セレビシエから誘導されるCAN1をコードするDNAを含む、請求項8に記載の方法。

10. モニターを下記工程、すなわち、

(i) テスト培養物および対照培養物を、該対照培養物が有意な生育を示す条件下でカナバニンに接触させ、そして

(ii) 該対照培養物の生育に比較して、生育が阻害されているテスト培養物を検出すること

により達成することを特徴とする、請求項 7 に記載の方法。

1 1. オーフアン受容体の転写活性メディエータを見出すための方法であって、該方法が次の工程、即ち、

(i) 下記 (a) および (b) を含む形質転換酵母細胞を供給すること、

(a) 該受容体、および

(b) リポーター遺伝子であって、そのリポーター遺伝子の発現がリガンド非依存的方法で該受容体により活性化されるもの、

(ii) 該形質転換酵母細胞をテスト化合物の存在下に培養してテスト培養物を生成すること、およびテスト化合物の不存在下に培養して対照培養物を生成すること、そして

(iii) 該テスト培養物および対照培養物中の該リポーター遺伝子の発現をモニターすること
を含む、前記方法。

1 2. 更に、

(iv) 受容体の転写活性を仲介する化合物として、テスト培養物中でリポーター遺伝子の発現を対照培養物に比較して変化させる化合物を検出すること

を含む、請求項 1 1 に記載の方法。

1 3. オーフアン受容体の転写活性メディエータを見出すための方法であって、該方法が次の工程、即ち、

(i) 下記 (a) および (b) を含む形質転換酵母細胞を供給すること、

(a) 該受容体、および

(b) リポーター遺伝子であって、そのリポーター遺伝子の発現がリガンド非依存的方法で該受容体により活性化されるもの、

(ii) 該形質転換酵母細胞をテスト化合物の存在下に培養してテスト培養

物を生成すること、およびテスト化合物の不存在下に培養して対照培養物を生成すること、そして

(iii) 該テスト培養物および対照培養物中の該リポーター遺伝子の発現をモニターし、該テスト培養物中で該リポーター遺伝子の発現を該対照培養物に比較して変化させる化合物を検出することを含む、前記方法。

14. オーフアン受容体の転写活性メディエータを見出すための方法であって、該方法が次の工程、即ち、

(i) 下記 (a)、(b) および (c) を含む形質転換酵母細胞を供給すること、

(a) 受容体、

(b) 該受容体の結合パートナーであって、該結合パートナーが該受容体と複合体を形成するもの、および

(c) リポーター遺伝子であって、そのリポーター遺伝子の発現がリガンド非依存的方法で該受容体結合パートナー複合体により活性化されるものの、

(ii) 形質転換酵母細胞をテスト化合物の存在下に培養してテスト培養物を生成すること、およびテスト化合物の不存在下に培養して対照培養物を生成すること、そして

(iii) 該テスト培養物および対照培養物中の該リポーター遺伝子の発現をモニターすることを含む、前記方法。

15. 更に、

(iv) 受容体の転写活性を仲介する化合物として、対照培養物に比較して培養する化合物を検出することを含む、請求項14に記載の方法。

16. オーフアン受容体の転写活性メディエータを同定する方法であって、該方法が次の工程、即ち、

(i) 下記 (a)、(b) および (c) を含む形質転換酵母細胞を供給すること

と、

(a) 受容体、

(b) 該受容体の結合パートナーであって、該結合パートナーが該受容体と複合体を形成するもの、および

(c) リポーター遺伝子であって、そのリポーター遺伝子の発現がリガンド非依存的方法で該受容体結合パートナー複合体により活性化されるものの、

(ii) 該形質転換酵母細胞をテスト化合物の存在下に培養してテスト培養物を生成すること、およびテスト化合物の不存在下に培養して対照培養物を生成すること、そして

(iii) 該テスト培養物および対照培養物中の該リポーター遺伝子の発現をモニターし、該テスト培養物中で該リポーター遺伝子の発現を該対照培養物に比較して変化させる化合物を検出することを含む、前記方法。